

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：薬学科

資格：教授

氏名：山森 元博

研究分野	研究内容のキーワード	
医療薬学	がん薬物治療、個別化、がん微小環境、ドラッグリポジショニング	
学位	最終学歴	
博士（薬学）	神戸薬科大学大学院 薬学研究科 医療薬科学専攻 修士課程 修了	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 学習方法の伝達	2021年～現在	初回講義（病態・薬物治療Ⅳ；3年生後期科目）において、学習方法を伝えるとともに学習の方法を身につけるヒントとなる教材を作成し配布している。
2. 学生主体の双方向授業	2018年～現在	処方解析学演習（4年生後期科目）：事前に提示した課題（症例および処方）について、調べた内容を1グループ4～5人でSGDを行い、発表・質疑応答まで行う。最後に教員がフィードバックし内容の修正・追加を行う。
3. 実臨床に基づいた講義の実践	2010年～現在	学習者の意欲向上、知識の定着を目的に、臨床で経験した出来事や症例、処方内容などと座学を関連付けた講義を行っている。（コミュニケーション論；2010～2017、処方箋の理解と薬剤師Ⅱ；2010～2018、病院薬局へ行く前に；2013～2017、疾病と薬物治療Ⅳ；2013～2018、病態・薬物治療Ⅳ；2017～現在、医薬品の適正使用Ⅱ2018～現在）
2 作成した教科書、教材		
1. 講義資料（病態・薬物治療Ⅱ）	2024年7月～	講義に使用する資料を作成した。
2. 復習プリント（病態・薬物治療Ⅳ）	2021年～現在	講義内容のポイントをまとめた資料を作成した。その資料中には学習方法を身につける内容や知識の定着を促す工夫を盛り込んだ。
3. 講義資料（医薬品の適正使用Ⅱ）	2019年～現在	講義に使用する資料を作成した。学生が主体的に取り組めるように設問と設問に関するヒントを盛り込んだ資料にした。
4. 講義資料（病態・薬物治療Ⅳ）	2017年9月～現在	講義に使用する資料を作成した。穴埋め形式、復習問題を導入した。
5. 講義資料（疾病と薬物治療Ⅳ）	2013年4月～現在	講義に使用する資料を作成した。穴埋め形式、復習問題を導入した。
6. 講義資料（処方箋の理解と薬剤師Ⅱ）	2010年11月～2018年	講義に使用する資料を作成した。穴埋め形式、復習問題を導入した。
7. 講義資料（医薬品開発の実際と製剤化）	2010年11月～2012年11月	講義に使用する資料を作成した。
8. 講義資料（コミュニケーション論）	2010年9月～2017年	教科書では不十分な部分を補足するための資料を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 病院薬剤師	2003年4月2009年3月	
4 その他		
1. 高校への模擬授業の実施	2015年3月6日	箕面自由学園高校において、薬学への招待をテーマに模擬授業を行った。
2. 担任	2014年4月から2020年3月	薬学科Dクラスの担任として、履修指導や学習支援等に努めた。
3. 医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ（文部科学省委託事業）	2014年2月19日	医療人養成に必要な薬学教育をテーマとしたSGD主体のワークショップに参加した。
4. 高校への模擬授業の実施	2012年11月14日	神戸鈴蘭台高校で解熱鎮痛剤から学ぶ薬学の基礎と実践という題目で模擬授業を行った。
5. 高校への模擬授業の実施	2012年2月24日	清明学院高校において、薬学に関する仕事をテーマに模擬授業を行った。
6. 武庫川女子大学附属高校 出張講義	2011年5月21日	武庫川女子大学附属高校の2年生を対象に生活習慣と病気というテーマで講義を行った。
7. 特別学期特別教育科目の担当	2011年2月3日	遺伝子情報を治療に役立てる、という題目で授業を担当した。
8. 第47回薬剤師のためのワークショップin近畿（認定実務実習指導薬剤師のためのワークショップ）への	2010年7月18日19日	神戸薬科大学で開催された第47回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
参加		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許

1. 薬剤師免許	2001年06月	
----------	----------	--

2 特許等

--	--	--

3 実務の経験を有する者についての特記事項

1. 病院薬剤師	2003年4月2009年3月	
----------	----------------	--

4 その他

1. カリキュラム検討委員会（薬学部内委員）	2022年4月現在	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に向けた準備を行う。
2. CBT・国試対策教育企画委員（薬学部内委員）	2016年4月～現在	共用試験CBTおよび薬剤師国家試験の合格に導くための対策の立案や運営を行っている。（2018年度～2021年度；副委員長、2022年度～委員長）
3. 第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿	2014年8月30日31日	武庫川女子大学で開催された薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいて、タスクフォースとして活動した。
4. OSCE企画運営委員（薬学部内委員）	2014年4月～現在	薬学共用試験OSCEの準備と実施（事前学習を含む）に従事している。
5. CBT運営担当委員（薬学部内委員）	2013年4月から2019年3月	共用試験CBTの準備と実施、ID・パスワードの管理、中継サーバー操作を担当した。
6. 女性研究者研究活動支援事業委員会（大学委員）	2013年4月から2018年3月	女性研究者支援センター調査広報部門サブリーダーとしてニューズレターの発行、意識啓発セミナーの企画と実施、ライフワークバランスに関するアンケート調査を実施し男女共同参画の取り組みなどの情報発信を行った。また、女性研究者の支援およびワークライフバランスの推進に取り組んだ。
7. 学部国際交流委員（薬学部内委員）	2013年4月2016年3月	MFWIおよび北京中医薬大学などとの交流の企画および実施に携わった。MFWIへの引率および北京中医薬大学との教員間交流を現地で行った。
8. 情報処理教育委員（大学委員）	2013年4月2016年3月	
9. 第63回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿	2012年8月25日8月26日	武庫川女子大学で開催された認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいて、事務局として活動した。
10. 早期体験学習（4年制）企画運営委員（薬学部内委員）	2012年4月から2014年3月	健康生命薬学科学学生の早期体験学習の企画と実施支援を行った。
11. 第55回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿	2011年8月27日8月28日	大阪大谷大学で開催された認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいて、タスクフォースとして活動した。
12. 学部広報委員（薬学部内委員）	2011年4月から2013年3月	オープンキャンパス担当としてオープンキャンパスの企画・運営に従事した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

1 著書

1. 実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル	共	2010年3月～現在	廣川書店	柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充、柴田敏之、厚田幸一郎、畝崎榮、長田孝司、角山香織、栗原晶子、小林大介、土屋雅勇、西口工司、廣谷芳彦、細谷治、山村恵子、山森元博 計数調剤、計量調剤、注射剤調剤における調剤量計算力を身につける演習用ドリルであり、各章の例題および解答解説を複数の大学教員と分担執筆した。
2. 医薬品開発論	共	2010年2月～現在	廣川書店	柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充、柴田敏之、原英彰、岡村昇、大西啓、諏訪俊男、手納直規、長田俊治、西山省二、丹羽敏幸、藤野秀樹、藤本正文、堀之内正則、山森元博、渡辺一弘 薬学教育モデル・コアカリキュラム、実務実習モデル・コアカリキュラム対応の教科書であり、第12章の執筆を担当した。

2 学位論文

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1. VEGF遺伝子診断に基づく消化器系がん化学療法の適正化に関する臨床薬学的研究	単	2009年		
3 学術論文				
1. In vivo evaluation of pharmacokinetic drug-drug interactions between fluorinated pyrimidine anticancer drugs, 5-fluorouracil and capecitabine, and an anticoagulant, warfarin (査読付)	共	2022年6月	Xenobiotica.	Hasegawa A, Tsujiya Y, Ueda A, <u>Yamamori M</u> , Okamura N. ラットを用いてフッ化ピリミジン系抗がん薬とワルファリンの薬物間相互作用の原因を調査した結果、ワルファリンの血中濃度に変化なくPTおよびAPTTの延長を認めたことから、これら薬物間の相互作用は薬物動態学的相互作用より薬力学的相互作用が原因であることが示唆された。
2. Troglitazone-Induced Autophagic Cytotoxicity in Lung Adenocarcinoma Cell Lines (査読付)	共	2022年3月	Biol Pharm Bull.	Tsujiya Y, Hasegawa A, <u>Yamamori M</u> , Okamura N. 肺がん細胞に対するトログリタゾンの効果とそのメカニズムを確認したところ、細胞の増殖抑制を認め、それはオートファジーによる細胞傷害が関与することを明らかにした。
3. Telmisartan-Induced Cytotoxicity via G2/M Phase Arrest in Renal Cell Carcinoma Cell Lines (査読付)	共	2021年12月	Biol Pharm Bull.	Tsujiya Y, Hasegawa A, <u>Yamamori M</u> , Okamura N. 腎臓がんに対するテルミサルタンの効果とそのメカニズムについて検討したところ、細胞増殖抑制効果を認め、それは細胞周期G2/M期の停止によるアポトーシスの誘導が関与していることを明らかにした。
4. Telmisartan Exerts Cytotoxicity in Scirrhous Gastric Cancer Cells by Inducing G0/G1 Cell Cycle Arrest (査読付)	共	2021年11月	Anticancer Res	Tsujiya Y, <u>Yamamori M</u> , Hasegawa A, Yamamoto Y, Yashiro M, Okamura N スキルス胃がんに対するテルミサルタンの抗腫瘍効果とそのメカニズムについて検討したところ、細胞増殖抑制効果を認め、それにはアポトーシスやオートファジーが一部関与していることを明らかにした。
5. 近畿圏内薬学部の2015、2016年度における薬剤師国家試験合格状況に関する報告 (査読付)	共	2019年3月	第66巻武庫川女子大学紀要	三浦健、速水幹也、 <u>山森元博</u> 、安井菜穂美 近畿圏内薬科大学の2015、2016年度の薬剤師国家試験の修業年数内合格状況を、各大学の入学時偏差値や修業年数内5年進級率と比較分析し評価した。
6. Pharmacokinetics of intravenous mycophenolate mofetil in allogeneic hematopoietic stem cell-transplanted Japanese patients. (査読付)	共	2018年5月	Cancer Chemother Pharmacol.	Kurata K, Yakushijin K, Okamura A, <u>Yamamori M</u> , Ichikawa H, Sakai R, Mizutani Y, Kakiuchi S, Miyata Y, Kitao A, Kawamoto S, Matsuoka H, Murayama T, Minami H. 同種造血幹細胞移植患者の移植片対宿主病に対する静注用ミコフェノール酸モフェチルの有用性を検討した結果、静注用製剤では経口製剤より高い血中濃度を維持することが確認できた。また安全かつ効果的に使用できることが示された。
7. 唾液中カフェイン薬物動態に薬物代謝酵素CYP1A2遺伝子多型が及ぼす影響に関する研究 (査読付)	共	2018年3月	第65巻武庫川女子大学紀要	競和佳、今井美穂、森次美和子、 <u>山森元博</u> 、村田成範、木下健司 薬剤師および薬学生の教育に関わる教材としてカフェインの遺伝子検査と薬物動態を、非侵襲的な唾液サンプルを用いて実験解析する手法を開発した。
8. 高齢者における脂肪	共	2017年8月	日本病院薬剤師会	尾濱直子、三浦 誠、友沢明德、黄前尚樹、松岡加世子、栗原晶

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
乳剤投与による問題点の抽出と適切な対処法への寄与を旨とした多施設共同研究(査読付)			雑誌	子, 山森元博, 角山香織, 柴田敏之 高齢者における脂肪乳剤投与による臨床検査値の変動の有無を調べた結果、, 肝機能が一過性に悪化する傾向にあることが示された。
9. In vitro and in vivo cytotoxicity of troglitazone in pancreatic cancer. (査読付)	共	2017年7月	J Exp Clin Cancer Res.	Fujita M, Hasegawa A, <u>Yamamori M</u> , Okamura N. 膵臓癌におけるトログリタゾンの有効性を確認したところ、in vitroおよびin vivoでその有用性が証明された。
10. Use of mycophenolate mofetil and a calcineurin inhibitor in allogeneic hematopoietic stem-cell transplantation from HLA-matched siblings or unrelated volunteer donors: Japanese multicenter phase II trials. (査読付)	共	2017年4月	Int J Hematol.	Nakane T, Nakamae H, Yamaguchi T, Kurosawa S, Okamura A, Hidaka M, Fuji S, Kohno A, Saito T, Aoyama Y, Hatanaka K, Katayama Y, Yakushijin K, Matsui T, <u>Yamamori M</u> , Takami A, Hino M, Fukuda T. 日本人の造血幹細胞移植患者を対象としたミコフェノール酸モフェチルの有用性に関するphase II試験。拒絶反応の抑制に有用であることが示された。
11. Lower Body Mass Index is a Risk Factor for In-Hospital Mortality of Elderly Japanese Patients Treated with Ampicillin/sulbactam. (査読有)	共	2016年10月	Int. J. Med. Sci.	M. Miura M, A. Kuwahara, A. Tomozawa, N. Omae, <u>M. Yamamori</u> , K. Kadoyama, T. Sakaeda, スルバクタムNa/アンピシリンNa投与中の高齢者患者の死亡原因をレトロスペクティブに調査したところBMIがリスク因子として考えられた。つまり、BMIが低い患者で死亡率が高いことが示唆された。
12. Serum Lactate Dehydrogenase Levels as a Predictive Marker of Oxaliplatin-Induced Hypersensitivity Reactions in Japanese Patients with Advanced Colorectal Cancer. (査読有)	共	2014年6月	Int. J. Med. Sci.	K. Seki, Y. Tsuduki, T. Ioroi, M. Yamane, H. Yamauchi, Y. Shiraishi, T. Ogawa, I. Nakata, K. Nishiguchi, T. Matsubayashi, Y. Takakubo, <u>M. Yamamori</u> , A. Kuwahara, N. Okamura and T. Sakaeda 大腸がん化学療法において、血清中LDH値によってオキサリプラチンによる過敏性反応の発症を予測できることを示唆した。
13. Genetic polymorphisms in SLC23A2 as predictive biomarkers of severe acute toxicities after treatment with a definitive 5-fluorouracil/	共	2014年2月	Int J Med Sci.	Minegaki T, Kuwahara A, <u>Yamamori M</u> , Nakamura T, Okuno T, Miki I, Omatsu H, Tamura T, Hirai M, Azuma T, Sakaeda T, Nishiguchi K. 食道がん化学放射線療法において、SLC23A2遺伝子型によって重篤な骨髄抑制および口内炎の発症を予測できることを示唆した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読有)				
14. TNF- α -857C>T genotype is predictive of clinical response after treatment with definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読有)	共	2013年10月	Int J Med Sci.	Omatsu H, Kuwahara A, <u>Yamamori M</u> , Fujita M, Okuno T, Miki I, Tamura T, Nishiguchi K, Okamura N, Nakamura T, Azuma T, Hirano T, Ozawa K, Hirai M. 食道がん化学放射線療法において、TNF- α 遺伝子型によって治療効果を予測できることを示唆した。
15. VEGF -634C/G genotype is predictive of long-term survival after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma (査読有)	共	2012年10月	Int. J. Med. Sci.	T. Tamura, A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , K. Nishiguchi, T. Nakamura, T. Okuno, I. Miki, Y. Manabe, T. Sakaeda 食道がん化学放射線療法において、VEGF遺伝子型による予後推定の可能性を示した。
16. Cytotoxicity of 15-deoxy- Δ (12,14)-prostaglandin J(2) through PPAR γ -independent pathway and the involvement of the JNK and Akt pathway in renal cell carcinoma. (査読有)	共	2012年9月	Int J Med Sci.	Fujita M, Tohji C, Honda Y, Yamamoto Y, Nakamura T, Yagami T, <u>Yamamori M</u> , Okamura N. 腎臓がんに対する15-deoxy- Δ (12,14)-prostaglandin J(2)の抗腫瘍効果を検討し、PPAR γ 非依存的な抗腫瘍効果を明らかにした。
17. THRB genetic polymorphisms can predict severe myelotoxicity after definitive chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma (査読有)	共	2012年9月	Int. J. Med. Sci	I. Miki, T. Nakamura, A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , K. Nishiguchi, T. Tamura, T. Okuno, H. Omatsu, S. Mizuno, M. Hirai, T. Azuma, T. Sakaeda 食道がん化学放射線療法において、THRB遺伝子型によって重篤な骨髄抑制の発症を予測できることを示唆した。
18. Involvement of the	共	2012年3月	Oncol Rep	M. Fujita, M. Tohi, K. Sawada, Y. Yamamoto, T. Nakamura, T.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
mevalonate pathway in the antiproliferative effect of zoledronate on ACHN renal cell carcinoma cells (査読有)				Yagami, <u>M. Yamamori</u> , N. Okamura 腎臓がんに対するzoledronateの抗腫瘍効果を検討し、mevalonate経路が重要であること、in vivoにおいても抗腫瘍効果が認められることを明らかにした。
19.Cytotoxicity of troglitazone through PPAR γ -independent pathway and p38 MAPK pathway in renal cell carcinoma (査読有)	共	2011年12月	Cancer Lett.	M. Fujita, T. Yagami, M. Fujio, C. Tohji, K. Takase, Y. Yamamoto, K. Sawada, <u>M. Yamamori</u> , and N. Okamura
20.Hypersensitivity reactions to anticancer agents: Data mining of the public version of the FDA adverse event reporting system, AERS (査読有)	共	2011年10月	J. Exp. Clin. Cancer Res.	K. Kadoyama, A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , J.B. Brown, T. Sakaeda, Y. Okuno
21.Effects of plasma concentrations of 5-fluorouracil on long-term survival after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous (査読有)	共	2011年10月	J. Exp. Clin. Cancer Res.	A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , K. Kadoyama, K. Nishiguchi, T. Nakamura, I. Miki, T. Tamura, T. Okuno, H. Omatsu, T. Sakaeda
22.Pharmacokinetics-based optimal dose prediction of donor source-dependent response to mycophenolate mofetil in unrelated hematopoietic cell transplantation (査読有)	共	2011年8月	Int.J.Hematol.	K. Wakahashi, <u>M. Yamamori</u> , K. Minagawa, S. Ishii, S. Nishikawa, M. Shimoyama, H. Kawano, Y. Kawano, Y. Kawamori, A. Sada, T. Matsui and Y. Katayama
23.Effects of bolus injection of 5-Fluorouracil on steady-state plasma concentrations of 5-Fluorouracil in Japanese patients with advanced colorectal cancer	共	2011年7月	Int. J. Med. Sci.	T. Tamura, A. Kuwahara, K. Kadoyama, <u>M. Yamamori</u> , K. Nishiguchi, K. Inokuma, Y. Takemoto, N. Chayahara, T. Okuno, I. Miki, Y. Fujishima and T. Sakaeda

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(査読有) 24. 15-Deoxy- Δ (12, 14)-prostaglandin J (2) enhanced the anti-tumor activity of camptothecin against renal cell carcinoma independently of topoisomerase-II and PPAR γ pathways (査読有)	共	2011年6月	Biochem.Biophys. Res. Commun.	Y. Yamamoto, M. Fujita, H. Koma, <u>M. Yamamori</u> , N. Okamura and T. Yagami
25. VEGF 936C>T is predictive of threshold retinopathy of prematurity in Japanese infants with a 30-week gestational age or less (査読有)	共	2011年3月	Research and Reports in Neonatology	I. M. Yagi, <u>M. Yamamori</u> , I. Morioka, N. Yokoyama, S. Honda, A. Negi, T. Nakamura, N. Okamura, K. Okumura, T. Sakaeda and M Matsuo
26. Risk factors for oxaliplatin-induced hypersensitivity reactions in Japanese patients with advanced colorectal cancer (査読有)	共	2011年3月	Int. J. Med. Sci	K. Seki, K. Senzaki, Y. Tsuduki, T. Ioroi, M. Fujii, H. Yamauchi, Y. Shiraishi, I. Nakata, K. Nishiguchi, T. Matsubayashi, Y. Takakubo, N. Okamura, <u>M. Yamamori</u> , T. Tamura, T. Sakaeda
27. TNFRSF1B A1466G genotype is predictive of clinical efficacy after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcin (査読有)	共	2010年7月	J Exp Clin Cancer Res.	Kuwahara A, <u>Yamamori M</u> , Fujita M, Okuno T, Tamura T, Kadoyama K, Okamura N, Nakamura T, Sakaeda T.
28. ACMIA法で異常高値を示す症例の判別法の検討 (査読有)	共	2010年4月	TDM研究	植田貴史、 <u>山森元博</u> 、小野由加里、田中健太、松本久美子、大松秀明、角本幹夫、榎本博雄、平野剛、平井みどり
29. Effect of dose-escalation of 5-fluorouracil on circadian variability of its pharmacokinetics in Japanese patients with stage III/IVa esophageal squamous cell	共	2010年1月	Int. J. Med. Sci.	A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , K. Nishiguchi, T. Okuno, N. Chayahara, I. Miki, T. Tamura, T. Kadoyama K, Inokuma, Y. Takemoto, T. Nakamura, K. Kataoka and T. Sakaeda

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
carcinoma (査読有) 30.Extended Mycophenolate Mofetil Administration Beyond Day 30 in Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation as Preemptive Therapy for Severe Graft-Versus-Host Disease (査読有)	共	2009年12月	Transplant. Proc.	S. Nishikawa, A. Okamura, <u>M. Yamamori</u> , K. Minagawa, Y. Kawamori, Y. Kawano, H. Kawano, K. Ono, Y. Katayama, M. Shimoyama, and T. Matsui
31.Replacement of cisplatin with nedaplatin in a definitive 5- fluorouracil/ cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma (査読有)	共	2009年9月	Int. J. Med. Sci.	A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , K. Nishiguchi, T. Okuno, N. Chayahara, I. Miki, T. Tamura, T. Inokuma, Y. Takemoto, T. Nakamura, K. Kataoka and T. Sakaeda
32. Pharmacokinetics and pharmacogenomics in esophageal cancer chemotherapy (査読有)	共	2009年5月	Adv Drug Deliv Rev.	T. Sakaeda, <u>M. Yamamori</u> , A. Kuwahara and K. Nishiguchi
33. Effects of ABCB1 3435C>T genotype on serum levels of cortisol and aldosterone in women with normal menstrual cycles (査読有)	共	2009年4月	Genet Mol. Res.	T. Nakamura, N. Okamura, M. Yagi, H. Omatsu, <u>M. Yamamori</u> , A. Kuwahara, K. Nishiguchi, M. Horinouch, K. Okumura and T. Sakaeda
34. Phase I and pharmacokinetic study of UFT/ leucovorin combined with 5- fluorouracil/ leucovorin and irinotecan in patients with advanced colorectal cancer (査読有)	共	2009年2月	Am. J. Clin. Oncol.	N. Chayahara, T. Tamura, <u>M. Yamamori</u> , Y. Kadowaki, T. Okuno, I. Miki, M. Tsuda, H. Nishisaki, T. Maeda, Y. Inoue, K. Okumura, T. Azuma, M. Kasuga, T. Sakaeda and M. Hirai
35. 5-フルオロウラシル 血漿中濃度と副作用 との相関 (査読有)	共	2009年1月	TDM研究	乗原晶子、 <u>山森元博</u> 、中村任、西口工司、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、片岡和二郎、柴田敏之
36. 食道がん化学放射線 療法における5-フル オロウラシル血漿中	共	2008年10月	TDM研究	乗原晶子、 <u>山森元博</u> 、門脇祐子、八木敬子、中村任、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
濃度と治療効果との相関（査読有）				
37. VEGF G-1154A is predictive of severe acute toxicities during chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese（査読有）	共	2008年8月	Ther. Drug Monit	T. Sakaeda, <u>M. Yamamori</u> , A. Kuwahara, S. Hiroe, T. Nakamura, K. Okumura, T. Okuno, I. Miki, N. Chayahara, N. Okamura and T. Tamura
38. Quantitative proteomic analysis to discover potential diagnostic markers and therapeutic targets in human renal cell carcinoma（査読有）	共	2008年8月	Proteomics	N. Okamura, T. Masuda, A. Gotoh, T. Shirakawa, S. Terao, N. Kaneko, K. Suganuma, M. Watanabe, T. Matsubara, R. Seto, J. Matsumoto, M. Kawakami, <u>M. Yamamori</u> , T. Nakamura, T. Yagami, T. Sakaeda, M. Fujisawa, O. Nishim
39. Pharmacokinetics-based optimal dose-exploration of mycophenolate mofetil in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation（査読有）	共	2008年7月	Int. J. Hematol	A. Okamura, <u>M. Yamamori</u> , M. Shimoyama, Y. Kawano, H. Kawano, Y. Kawamori, S. Nishikawa, K. Minagawa, K. Yakushijin, Y. Katayama, T. Sakaeda, M. Hirai and T. Matsui
40. VEGF T-1498C polymorphism, a predictive marker of differentiation of colorectal adenocarcinomas in Japanese（査読有）	共	2008年4月	Int. J. Med. Sci.	<u>M. Yamamori</u> , M. Taniguchi, S. Maeda, T. Nakamura, N. Okamura, A. Kuwahara, K. Iwaki, T. Tamura, N. Aoyama, S. Markova, M. Kasuga, K. Okumura, T. Sakaeda
41. Reversal effects of Ca ²⁺ antagonists on multidrug resistance via down-regulation of MDR1 mRNA（査読有）	共	2008年2月	Kobe J. Med. Sci.	C. Komoto, T. Nakamura, <u>M. Yamamori</u> , N. Ohmoto, H. Kobayashi, A. Kuwahara, K. Nishiguchi, K. Takara, Y. Tanigawara, N. Okamura, K. Okumura and T. Sakaeda
42. Three-dimensional, but not two-dimensional, culture results in tumor growth enhancement after exposure to anticancer drugs（査読有）	共	2008年2月	Kobe J. Med. Sci.	C. Komoto, T. Nakamura, N. Ohmoto, H. Kobayashi, T. Yagami, K. Nishiguchi, K. Iwaki, A. Kuwahara, <u>M. Yamamori</u> , N. Okamura, K. Okumura and T. Sakaeda
43. 食道がん化学放射線療法における病期、奏効と予後との相関（査読有）	共	2008年1月	医療薬学	乗原晶子、 <u>山森元博</u> 、榎本博雄、西口工司、八木敬子、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之
44. Association of	共	2007年11月	Biol. Pharm.	T. Nakamura, K. Nozu, K. Iijima, N. Yoshikawa, Y. Moriya, <u>M.</u>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
cumulative cyclosporine dose with its irreversible nephrotoxicity in Japanese patients with pediatric-onset auto-immune diseases (査読有)			Bull	<u>Yamamori</u> , A.Kako, M.Matsuo, A.Sakurai, N.Okamura, T. Ishikawa, K.Okumura and T.Sakaeda
45. IL-1beta genotype-related effect of prednisolone on IL-1beta production in human peripheral blood mononuclear cells under acute inflammation (査読有)	共	2007年8月	Biol. Pharm. Bull	S.Markova, T.Nakamura, H.Makimoto, T.Ichijima, <u>M. Yamamori</u> , A.Kuwahara, K.Iwaki, K.Nishiguchi, N.Okamura, K.Okumura and T.Sakaeda
46. Favorable genetic polymorphisms predictive of clinical outcome of chemoradiotherapy for Stage II/III esophageal squamous cell carcinoma in Japanese (査読有)	共	2007年6月	Am. J. Clin. Oncol.	T.Okuno, T.Tamura, <u>M. Yamamori</u> , N.Chayahara, T.Yamada, I. Miki, N.Okamura, Y.Kadowaki, N.Aoyama, T.Nakamura, K. Okumura, T.Azuma, M.Kasuga and T.Sakaeda
47. Association of VEGF genotype with mRNA level in colorectal adenocarcinomas, (査読有)	共	2004年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun.	<u>M. Yamamori</u> , T. Sakaeda, T. Nakamura, N. Okamura, T. Tamura, N. Aoyama, T. Kamigaki, M. Ohno, T. Shirakawa, A. Gotoh, Y. Kuroda, M. Matsuo, M. Kasuga and K. Okumura
48. Dominant negative c-Jun inhibits platelet-derived growth factor-directed migration by vascular smooth muscle cells (査読有)	共	2003年2月	J. Pharmacol. Sci.	T. Ioroi, <u>M. Yamamori</u> , K. Yagi, M. Hirai, Y. Zhan, S. Kim and H. Iwao
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 肺がん細胞株におけるテルミサルタンの抗腫瘍効果	共	2022年3月27日	日本薬学会第142年会	辻屋 徳恵、長谷川 愛、山森 元博、岡村 昇
2. ローヤルゼリーとワルファリンの相互作用機構の解明	共	2021年3月29日	日本薬学会第141年会	長谷川 愛、辻屋 徳恵、山森 元博、岡村 昇
3. 腎臓がん細胞株におけるテルミサルタンの抗腫瘍効果	共	2021年3月29日	日本薬学会第141年会	辻屋 徳恵、長谷川 愛、山森 元博、岡村 昇
4. ヒト肺がん細胞におけるトログリタゾン	共	2020年3月28日	日本薬学会第140年会	辻屋 徳恵、長谷川 愛、山森 元博、岡村 昇

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の抗腫瘍効果				
5. 5-フルオロウラシルとワルファリンの薬物間相互作用機構の解明	共	2020年3月28日	日本薬学会第140年会	長谷川 愛、辻屋 徳恵、山森 元博、岡村 昇
6. ヒト大腸がん細胞株におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果	共	2019年3月	日本薬学会第139年会	辻屋 徳恵、長谷川 愛、山森 元博、岡村 昇
7. 5-フルオロウラシルとワルファリンの薬物間相互作用機構の解明	共	2019年3月	日本薬学会第139年会	長谷川 愛、辻屋 徳恵、山森 元博、岡村 昇
8. 6年制薬学課程における修業年数内進級と国家試験の可否の関係	共	2019年3月	日本薬学会第139年会	三浦 健、速水 幹也、山森 元博、安井 菜穂美
9. 6年制薬学課程における留年・卒業延期・国家試験合格の関係	共	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会	三浦健、速水幹也、山森元博、安井菜穂美
10. ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドおよび抗てんかん薬の併用効果	共	2018年7月	日本医療薬学会主催第2回フレッシュアーズ・カンファランス	辻屋徳恵、藤田恵、長谷川愛、山森元博、岡村昇
11. Pharmacokinetics of intravenous mycophenolate mofetil after hematopoietic stem cell transplantation in Japanese population	共	2018年2月	BMT Tandem Meetings	Kurata K, Okamura A, Yamamori M, Yakushijin K, Kawaguchi K, Higashime A, Ichikawa H, Sakai R, Mizutani Y, Kakiuchi S, Miyata Y, Kitao A, Kawamoto S, Matsuoka H, Minami H
12. A prospective study of very low-dose lenalidomide (miniRd) in elderly relapsed/refractory myeloma	共	2016年10月	第78回日本血液学会学術集会	柏木貴雄、皆川健太郎、山森元博、木村祥子、足立陽子、川野宏樹、来住 稔、小出 亮、岩井正秀、鈴木知秀、石井慎一、若橋香奈子、川野裕子、定 明子、片山義雄、松井利充
13. 腎臓がん細胞の遊走に及ぼすgalectin-1の影響	共	2016年9月	第26回日本医療薬学会年会	山森元博、川上恵、長谷川愛、山口京子、前沙織、大石真子、岡村昇
14. 唾液中カフェイン体内動態解析と薬物代謝酵素CYP1A2 遺伝子多型の相関について	共	2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会	坂口友唯、競 和佳、森次美和子、福本夏絵、井尻香織、佐々木麻有、藤井真紀、上中谷暁、村田成範、山森元博、木下健司
15. 5-フルオロウラシルとワルファリンの薬物間相互作用機構の解明	共	2016年6月	医療薬学フォーラム2016	長谷川 愛、本田 陽子、川上 恵、山森 元博、岡村 昇
16. 膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果(2)	共	2016年6月	医療薬学フォーラム2016	前 沙織、川上 恵、山口 京子、長谷川 愛、本田 陽子、山森 元博、岡村 昇
17. 膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果(1)	共	2016年6月	医療薬学フォーラム2016	山口 京子、川上 恵、前 沙織、長谷川 愛、本田 陽子、山森 元博、岡村 昇
18. ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドとバルプロ酸の併用効果	共	2016年3月	第136回 日本薬学会年会	川上 恵、前 沙織、山口 京子、本田 陽子、山森 元博、岡村 昇

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. 膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果 (2)	共	2016年3月	第136回 日本薬学会年会	山口 京子, 川上 恵, 前 沙織, 本田 陽子, 山森 元博, 岡村 昇
20. 膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果 (1)	共	2016年3月	第136回 日本薬学会年会	前 沙織, 川上 恵, 山口 京子, 本田 陽子, 山森 元博, 岡村 昇
21. Pharmacokinetics of low-dose lenalidomide (LEN) in elderly multiple myeloma	共	2015年10月	第77回日本血液学会学術集会	柏木貴雄, 山森元博, 木村祥子, 皆川健太郎, 川野宏樹, 松井美樹, 来住稔, 小出亮, 岩井正秀, 足立陽子, 鈴木知秀, 石井慎一, 若橋香奈子, 川野裕子, 定明子, 片山義雄, 松井利充
22. PK-PD理論に基づいたP1PC-TAZ投与が高齢者の臨床検査値へ及ぼす影響	共	2013年9月	第23回日本医療薬学会年会	藤裕美, 片山直子, 黄前尚樹, 角山香織, 栗原晶子, 山森元博, 三浦誠, 柴田敏之
23. 食道がん化学放射線療法適用後の長期予後とVEGF遺伝子型との関係	共	2013年9月	第23回日本医療薬学会年会	真鍋友紀, 田村孝雄, 栗原晶子, 山森元博, 西口工司, 中村任, 奥野達哉, 三木生也, 柴田敏之
24. 食道がん化学放射線療法適用後の長期予後とVEGF遺伝子型との関係	共	2013年3月	日本薬学会第133年会	真鍋友紀, 田村孝雄, 栗原晶子, 山森元博, 西口工司, 中村任, 奥野達哉, 三木生也, 柴田敏之
25. ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドの効果に及ぼす抗てんかん薬の影響	共	2012年3月	第132回 日本薬学会年会	西口裕子, 藤田恵, 稲彩乃, 本田陽子, 山森元博, 岡村昇
26. The synergistic toxicity of the combination of 15-deoxy- Δ 12, 14-prostaglandin J2 and several anti-tumor agents against renal cell carcinoma	共	2012年3月	第85回 日本薬理学会年会	Yasuhiro Yamamoto, Hiromi Koma, Megumi Fujita, Motohiro Yamamori, Tsutomu Nakamura, Noboru Okamura, Tatsurou Yagami
27. Pharmacokinetics-based optimal dose prediction of Mycophenolate Mofetil in unrelated haematopoietic cell transplantation: proposal of strategies depending on donor source	共	2011年4月	The 37th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation	K. Wakahashi, M. Yamamori, K. Minagawa, H. Kawano, Y. Kawano, A. Sada, Y. Katayama, T. Matsui
28. 急性GVHD 予防薬MMFの至適投与法確立に関する研究 (第4報): 薬物動態パラメーターと臨床的有用性の相関	共	2011年3月	第85回 日本造血幹細胞学会	若橋香奈子, 山森元博, 皆川健太郎, 川森有里子, 川野宏樹, 川野裕子, 西川真一郎, 下山 学, 定 明子, 片山義雄, 松井利充
29. 食道がん化学放射線療法における治療成績とフルオロウラシル血漿中濃度との相	共	2011年3月	日本薬学会第131年会	栗原晶子, 山森元博, 岡村昇, 片岡和三郎, 田村孝雄, 柴田敏之

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
関				
30.食道がんにおける TNFRSF1Bの遺伝子多型と5-FU/CDDP放射線化学療法の薬理効果の予測	共	2010年9月	第69回 日本癌学会学術総会	花房加奈恵、山森元博、峯垣哲也、西口工司、田村孝雄、角山香織、岡村昇、柴田敏之
31. Plasma concentration of 5-fluorouracil is predictive of clinical response after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese	共	2009年10月		A. Kuwahara, K. Kataoka, T. Sakaeda, M. Yamamori and T. Tamura
32. Pharmacokinetics-based optimal dose-exploration of mycophenolate mofetil in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	単	2009年10月		
33. ACMA法におけるタクロリムス血中濃度測定値がMEIA法より高値を示す症例についての検討	共	2009年06月		1. 植田貴史、山森元博、小野由加里、田中健太、松本久美子、角本幹夫、榎本博雄、平野剛、平井みどり
34. The Promising Strategy of Mycophenolate Mofetil Dosing to Prevent Moderate-to Severe-Acute Graft-Versus-Host Disease	共	2008年12月		S Nishikawa, A Okamura, M Yamamori, Y Katayama, M Shimoyama and T Matsui
35. 移植後急性GVHD予防薬ミコフェノール酸モフェチル(MMF)分3投与の安全性および有用性	共	2008年10月		岡村篤夫、山森元博、小野香奈子、川野裕子、川野宏樹、川森有里子、西川真一郎、皆川健太郎、下山学、片山義雄、柴田敏之、平井みどり、松井利充
36. 当院のヒヤリ・ハット報告からみえてきた疼痛緩和ケアの課題	共	2008年10月		角山香織、山口徹郎、紀平裕美、打保裕子、山森元博、榎本博雄、西口工司、平井みどり
37. Suppression of sorcin mRNA in patients with renal cell carcinoma	共	2008年10月		川上恵、中村任、岡村昇、寺尾秀治、後藤章暢、白川利朗、藤澤正人、山森元博、柴田敏之
38. ミコフェノール酸モフェチルを用いた造血幹細胞移植プロトコールにおける副作用調査	共	2008年09月		丸上奈穂、寺元真由美、長谷川真澄、山森元博、谷藤亜希子、角山香織、榎本博雄、西口工司、岡村篤夫、松井利充、平井みどり
39. 健常人女性における	共	2008年07月		中村任、岡村昇、八木麻理子、大松秀明、山森元博、栗原晶子、西

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
血清ホルモン濃度に及ぼすMDR1遺伝子多型の影響				口工司、堀之内正則、奥村勝彦、柴田敏之
40. Effects of ABCB1 genetic polymorphisms on the interindividual variations in serum hormone levels in women with normal menstrual cycles	共	2008年04月		T. Nakamura, N. Okamura, M. Yagi, H. Omatsu, M. Yamamori, H. Makimoto and T. Sakaeda
41. 急性GVHD予防薬ミコフェノール酸モフェチル(MMF)の移植後Day30以降における漸減投与の必要性	共	2008年02月		岡村篤夫、川野裕子、山森元博、松井利充
42. 食道がん化学放射線療法における血漿中5-FU濃度、VEGF、ICAM-1遺伝子多型と治療効果との相関	共	2007年12月		榎本博雄、山森元博、栗原晶子、廣江訓子、西口工司、中村任、岡村昇、奥村勝彦、平井みどり、柴田敏之
43. Genetic polymorphisms predictive of severe acute toxicities during chemotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese	共	2007年12月		H. Makimoto, T. Sakaeda, T. Tamura, M. Yamamori, I. Miki, T. Okuno, N. Chayahara, M. Hirai, and K. Okumura
44. 食道がん化学放射線療法における副作用発現とVEGF遺伝子型の相関	共	2007年10月		前田晋吾、山森元博、中村任、奥野達哉、三木生也、茶屋原菜穂子、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之
45. 食道がん化学放射線療法における治療効果と5-フルオロウラシル血漿中濃度の相関	共	2007年10月		廣江訓子、山森元博、中村任、奥野達哉、三木生也、茶屋原菜穂子、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之
46. 食道がん化学放射線療法における病期、奏効と予後との相関	共	2007年09月		栗原晶子、山森元博、榎本博雄、西口工司、八木敬子、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之
47. 食道がん化学放射線療法における5-FU血漿中濃度と治療効果との相関	共	2007年07月		栗原晶子、山森元博、門脇祐子、榎本博雄、西口工司、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之
48. Favorable genetic polymorphisms predictive of clinical outcome of chemoradiotherapy for stage II/III esophageal squamous cell carcinoma in	共	2007年06月		T. Okuno, T. Tamura, M. Yamamori, N. Chayahara, I. Miki, D. Shirasaka, T. Nakamura, M. Kasuga

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Japanese 49. Favorable genetic polymorphisms predictive of clinical outcome of chemoradiotherapy for Stage II/III esophageal squamous cell carcinoma in Japanese	共	2007年04月		S. Maeda, M. Yamamori, T. Okuno, T. Nakamura, N. Okamura, N. Chayahara, T. Tamura, N. Aoyama, T. Azuma, M. Kasuga, K. Okumura and T. Sakaeda
50. Vascular endothelial growth factor gene polymorphism and adverse events of chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese	単	2007年04月		
51. Pharmaodynamicsに基づく急性GVHD/着着促進を目的としたミコフェノール酸モフェチル(MMF) 投与法の確立に関する研究	共	2007年02月		岡村篤夫、山森元博、船越洋平、川森有里子、皆川健太郎、薬師神公和、下山学、片山義雄、山本克也、松井利充
52. MDR1 T-129C 遺伝子診断に基づく大腸癌予後の予測	共	2006年11月		谷口麻由子、前田晋吾、山森元博、奥野達哉、中村任、柴田敏之、田村孝雄、春日雅人、岡村昇、奥村勝彦
53. 遺伝子診断に基づく食道癌化学療法の適正化	共	2006年11月		廣江訓子、門脇祐子、山森元博、奥野達哉、中村任、柴田敏之、田村孝雄、春日雅人、岡村昇、奥村勝彦
54. VEGF遺伝子診断に基づく大腸癌の予後予測	共	2006年11月		前田晋吾、谷口麻由子、山森元博、奥野達哉、中村任、柴田敏之、田村孝雄、春日雅人、岡村昇、奥村勝彦
55. 大腸がん標準的化学療法におけるUFTの適用	共	2006年09月		門脇祐子、山森元博、中村任、茶屋原菜穂子、田村孝雄、春日雅人、山下伸二、榎本博雄、西口工司、奥村勝彦、柴田敏之
3. 総説				
1. An acidic microenvironment induces the malignant phenotype of colorectal cancer through the VDR-SOX2 signaling (査読付)	共	2022年12月	ビタミン誌 96巻	山森元博、野坂和人
2. Mycophenolate mofetil: fully utilizing its benefits for GvHD prophylaxis (査読有)	共	2012年1月	Int. J. Hematol.	K. Minagawa, M. Yamamori, Y. Katayama, T. Matsui
3. PK-PD理論の確立から20年 -最近の知見と今後の展望- (査読有)	共	2009年12月	THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS	柴田敏之、角山香織、山森元博

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
読有) 4. Pharmacokinetics and pharmacogenomics in esophageal cancer chemotherapy (査読有)	共	2009年5月	Adv Drug Deliv Rev	T.Sakaeda, <u>M. Yamamori</u> , A.Kuwahara and K.Nishiguchi
5. 食道がん化学放射線療法の個別化 (査読有)	共	2008年12月	医薬ジャーナル社	柴田敏之、 <u>山森元博</u> 、 <u>栗原晶子</u> 、西口工司
6. Pharmacogenetics of intestinal absorption (査読有)	共	2008年7月	Curr. Drug Deliv.	T.Nakamura, <u>M. Yamamori</u> and T.Sakaeda
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. スキルス胃癌微小環境におけるCAF教育-進展機構の解明	共	2024年4月 (2024～2026)	科学研究費補助事業（基盤研究(C)（一般））	
2. 腎臓がんの転移・浸潤予防に向けてのガレクチン-1の機能解明	単	2015年 (2015～2017)	科学研究費助成事業（若手研究B）	
3. 奨学寄付金	単	2014年～2018年	中外製薬株式会社	
4. 大腸癌化学療法における経口フツ化ピリミジン系代謝拮抗剤の適正使用に関する研究	共	2008年 (2008～2010)	科学研究費補助事業（基盤研究C）	

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2024年10月5日	第74回 日本薬学会関西支部総会・大会 ポスター審査員
2. 2023年5月	YAKUGAKU ZASSHI 投稿論文審査
3. 2018年10月13日	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会ポスター審査員
4. 2016年9月	第26回 日本医療薬学会年会実行委員
5. 2015年6月	医療薬学会投稿論文審査
6. 2014年5月	医療薬学会投稿論文審査
7. 2012年5月	医療薬学会投稿論文審査
8. 2012年1月	医療薬学会投稿論文審査
9. 2009年6月	日本TDM学会 国際TDM会議 派遣賞（海老原賞）受賞